

第70回 西日本 新人カッター競技大会

レース：令和6年11月3日（日）

公開練習：令和6年11月2日（土）

場所：株式会社ヤマハマリン西九州前面海域

長崎県西彼杵郡時津町久留里郷 1439-10



主催：全日本カッター連盟

主管：長崎大学水産学部男子・女子端艇部

後援／長崎大学水産学部、長崎大学水産学部同窓会鶴水会、鶴水艇友会（端艇部 OB・OG 会）

株式会社ヤマハマリン西九州、諫早海洋少年団、大村湾漁業協同組合

協力／水産大学校、九州看護福祉大学、国立口之津海上技術学校、長崎県立鶴洋高等学校

出場校／海上保安大学校、神戸大学、水産大学校、鹿児島大学、京都府立海洋高等学校、

長崎大学、（オープン参加）国立口之津海上技術学校

西日本新人カッター競技（70 周年長崎）大会に寄せて



長崎大学名誉教授

鶴水艇友会（端艇部 OB 会幹事）

前 全日本カッター連盟会長 高山 久明

第 70 回の節目となる西日本新人カッター競技大会が、長崎の大村湾で開催されることは大変嬉しく思います。新人戦の長崎開催は前回（第 65 回・令和元年）から 5 年経過、今回で 12 回目となります。レース使用の長大九米艇は、建造後 45 年前後で腐食が激しいため、試合艇は借用艇で開催されるようで、ご容赦下さい。

さて 70 周年長崎大会の新人戦の開催に当たりご挨拶とのことですが、私の端艇略歴を申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます（詳細は全日本カッター連盟 HP の会長挨拶文を参照下さい）。私は海なし県の信州松本の出身ですが、縁あって長崎大学水産学部漁業学科に入学、端艇部に入部したことでカッターとのご縁が始まりました。新人戦参加は 53 年前の第 17 回大会（水産大・吉見、6 位）に始まり、三校定期戦（長崎・形上湾、1 位）、2 年次全日本（防大・横須賀、6 位）、三校定期（鹿大・錦江湾、1 位）、3 年次全日本（海保大・呉、敗者復活戦後決勝進出 4 位）、そして丁度 50 年前の第 18 回全日本（東京水産大・館山実習場、1 位）に 4 年次で出場させて頂き、長大全日本初優勝の栄誉に浴した次第です。

端艇部に入部後、先輩、同輩、後輩諸兄に恵まれ、これもご縁で長大に残り、恵まれた 50 年を過ごさせて戴きました。この間、OB 会の立ち上げ（平成 9 年）、全日本カッター連盟会長（第 62 回～68 回大会まで、コロナ禍もあり尋常でない 7 年間）、長大での新人戦のお世話、市民大会の横浜港カッターレースへの参加など、カッターをお世話する積りが、お世話になった 50 年間でした。

この度の新人戦大会に各校の代表として参加する後輩諸兄の前途を祝し、カッターとのご縁を大切にしてお有意義な人生を送られんことを祈ります。

最後に本大会の開催に当たり、ご後援・ご協力頂いた関係各位、また準備と運営にご協力いただいた各校、大会の実行委員の方々に深く感謝申し上げ、ご挨拶と致します。

令和 6 年 10 月吉日

第70回西日本新人カッター競技大会を迎えて

長崎大学水産学部長

第70回西日本大会会長 阪倉 良孝

第70回西日本新人カッター競技大会開催を迎えるにあたり、一言挨拶を申し上げます。

本大会が70回という大きな節目を迎え、その記念すべき大会が長崎大学担当のもとで開催されますことを、誠に誇らしく、また嬉しく思います。競技場となる大村湾は閉鎖性内湾であることから、波静かで穏やかな水域となっており、古くから「琴の海」と称されています。この風光明媚な琴の海で皆さんが精一杯競技してもらえるように、私たち運営側も一生懸命務めますので、コロナ禍空けの久しぶりの開催ということもあり至らないところもあるかと思いますが、ご容赦いただきますようお願いいたします。

私は、カッター競技は団体競技の極みのような性格をもっていると思っています。8人ないし12人の艇員全てが力を合わせて初めて一艇を目標に向かって動くことができるからです。そこには、単なる漕艇の技術のみならず、規律（discipline）と協調（cooperation）の二つが必要となるはずです。洋上生活や操船のための技術や知識のみをもってシーマンシップとするところもあるようですが、シーマンシップには、技術や知識に加えて、規律と協調のような精神性を併せ持って初めて成立するものであると理解しています。皆さんが、練習や競技を通じて培うシーマンシップは、将来も必ず皆さんを助けてくれる大きな力になると確信しています。

繰り返しになりますが、日頃の練習の成果を発揮して母校へ栄誉と誇りを持ち帰られるように、精一杯競技をして下さい。そして、出場各校の間で親睦を深めていただき、より豊かなシーマンシップを醸成して下さい。

最後に、本体の開催にあたり、準備と運営にご協力いただいた各校の皆様と大会の実行委員会の皆様に御礼を申し上げます。特に、艇の貸与を快くお引き受け下さった、長崎県立長崎鶴洋高等学校ならびに諫早海洋少年団をはじめとする関係各位にこの場をお借りして深謝申し上げます。

〈大会概要〉

大会期間 2024 年 11 月 2 日（土）～2024 年 11 月 3 日（日）

2 日：公開練習・主将会議

3 日：予選レース・本レース・大会会議

主 催 全日本カッター連盟

主 管 長崎大学水産学部男子・女子端艇部

会 場 株式会社ヤマハマリン西九州および長崎県大村湾

参 加 校 〔一般の部〕

海上保安大学校 鹿児島大学 京都府立海洋高等学校 神戸大学
水産大学校 長崎大学 （オープン参加）国立口之津海上技術学校

〔女子の部〕

海上保安大学校 鹿児島大学 京都府立海洋高等学校 水産大学校 長崎大学

〈行事日程〉

公開練習

日時 11 月 2 日（土）

場所 株式会社ヤマハマリン西九州前面海域
（長崎県西彼杵郡時津町久留里郷 1439 番地 10）

主将会議

日時 11 月 2 日（土）

場所 株式会社ヤマハマリン西九州

大会会議

日時 11 月 3 日（日）

場所 株式会社ヤマハマリン西九州

〈大会役員〉

大会会長	阪倉 良孝	長崎大学水産学部学部長
大会副会長	清水 健一	長崎大学水産学部教授
審判長	丸山 裕豊	長崎大学水産学部附属練習船長崎丸三等航海士
警備担当	八木 光晴	長崎大学水産学部准教授
総務担当	谷山 茂人	長崎大学水産学部教授
	濱田 友貴	長崎大学水産学部准教授

〈実行委員会〉

実行委員長	鈴木大樹
副実行委員長	脇田智子、和泉匠真
総務	外戸口智紀、千葉駿輔、本田彼方、山口皓士朗、橋村哉汰
広報	青柳凜子、佐藤吏航
会計	森田善行、小島明輝
審判	石川裕平、田中広太、植松昭登
警備	内盛真音李

その他協力
〔九州看護福祉大学〕 花田雄二助教、臼井佑香、内園華奈、内山晃太、
大久保佑和、大野真優、古賀龍也
〔水産大学校〕 酒井健一准教授、杉野亮介助教

〈競技概要〉

〔一般・オープンレース〕

艇員は艇指揮1名、艇長1名、漕手12名、補欠4名(計18名)とし、1レースにつき2チームが9m艇で2,000m(回頭あり)の距離を競い合う。

〔女子・オープンレース〕

艇員は艇指揮1名、艇長1名、漕手6名、補欠4名(計12名)とし、1レースにつき2チームが6m艇で1,000m(回頭あり)の距離を競い合う。

〈審判規定〉

1. 使用艇の決定

予選に使用する艇及びコースはレース前日に抽選によって決定する。敗者復活レース・順位決定レース・決勝レースに使用する艇及びコースは当日の抽選により決定する。原則としてオールは艇に備えているものを使用すること。

2. 艇員

一般レースの艇員は、艇指揮・艇長・漕手 12・補欠 4 による計 18 名とし、艇員の性別は問わない。

女子レースの艇員は、艇指揮・艇長・漕手 6・補欠 4 による計 12 名とし、漕手は全員女子であること。

なお、一般・女子レースともに補欠は各レース 2 名までとし、レース中の交替も自由とする。艇指揮、艇長は艇尾に配置しなければならない。

3. 使用艇搭載物品 使用艇には下記に示す物品を搭載する。

〔搭載物品〕

① トランシーバー 1 台 ② 紅白手旗 1 組 ③ 救命浮輪 1 個 ④ あかくみバケツ 1 個

⑤ オール 一般レース 14 本(予備オール 2 本含む)

女子レース 7 本(予備オール 1 本含む)

⑥ ボートフック 1 本 ⑦ 新聞紙

4. 出場艇の標識

一般レースの出場艇は当該校の標識を艇尾旗竿に掲揚できるものとする。(艇尾旗竿はございません)

5. 発進要領

(1) 発進は以下の要領で各艇が揃い次第行う。トグルは使用しない。

(2) 審判員は全艇の出艇を確認しスタート予定時刻 5 分前になったときに、各艇にスタートラインに整列するようにトランシーバーで通達する。各艇は艇尾を基準としてブイを左に見るようにスタート位置に接近し、審判員の指示に従ってその位置を調整する。各艇長は用意が完了したら白旗を直立し、陸上の審判員にその旨を示す。「各艇その位置、各艇その位置」の連絡があるまで旗を揚げ続ける。なお、発進準備が完全でない艇は、赤旗を揚げるものとする。

(3) 審判員の「各艇その位置、各艇その位置」の連絡により各艇漕手のオールを上げる(荒天時審判員から指示があった場合の 1・2 番オールの着水を除く)。なお、この連絡の後に揚げた赤旗及び艇首を立て直す行為は認めない。

(4) スタート：手旗 2 原画号笛 1 声、手旗頭上より号笛連続とともに 1 回転し、頭上から振り下ろす瞬間をスタートとする。それに合わせて号砲を撃つ。

(5) 発進は各艇が揃い次第行うが、ブイ修正やレース海面に障害が生じた等、レースの公平な運営に支障があると認められた場合には審判長の判断により発進を遅らせることができる。

(6) 艇員の不注意に起因する発進の遅滞等については、これを考慮しない。

(7) 上記以外で審判員の指示があった場合は、それに従う。

6. とう漕中の規則及び注意

- (1) 各艇は定められた自己のコースをとう漕するものとする。
- (2) 各艇は原則として完走するものとし、途中の棄権は認めない。スタート合図前に飛び出した艇も完走しなければならない。ただし、自艇の故障(*)及びこれに類する場合を除く。
- (3) 互いにコースの端を航行して接触のおそれのある場合は後行艇が先行艇の進路を避けるものとする。
- (4) レース中のコースにおける障害は、他艇の不正な接触を除くほか各艇これを忍ぶべきものとする。

例：風潮、他船の引き起こす波、漂流物等

* 自艇の故障…航走することができないと審判員が認める場合

7. 回頭要領

回頭は左回頭(反時計回り)とし、回頭は指定の回頭旗を回頭するものとする。

8. ゴール

- (1) 艇首が規定のゴールラインにブイを左に見て入った順序をもって順位とし審判する。
- (2) 同着の場合は追い込み艇の勝ちとする。追い込み艇の判定の困難な場合は回頭旗を遅れて回頭終了(回頭を終わって艇首をゴールラインに向首した時点)した艇を追い込み艇とする。以上の判定でも判定が困難な場合は同着とし次位を空位とする。
- (3) オールを海中に取られた状態のままゴールしても失格としない。

9. 失格事項

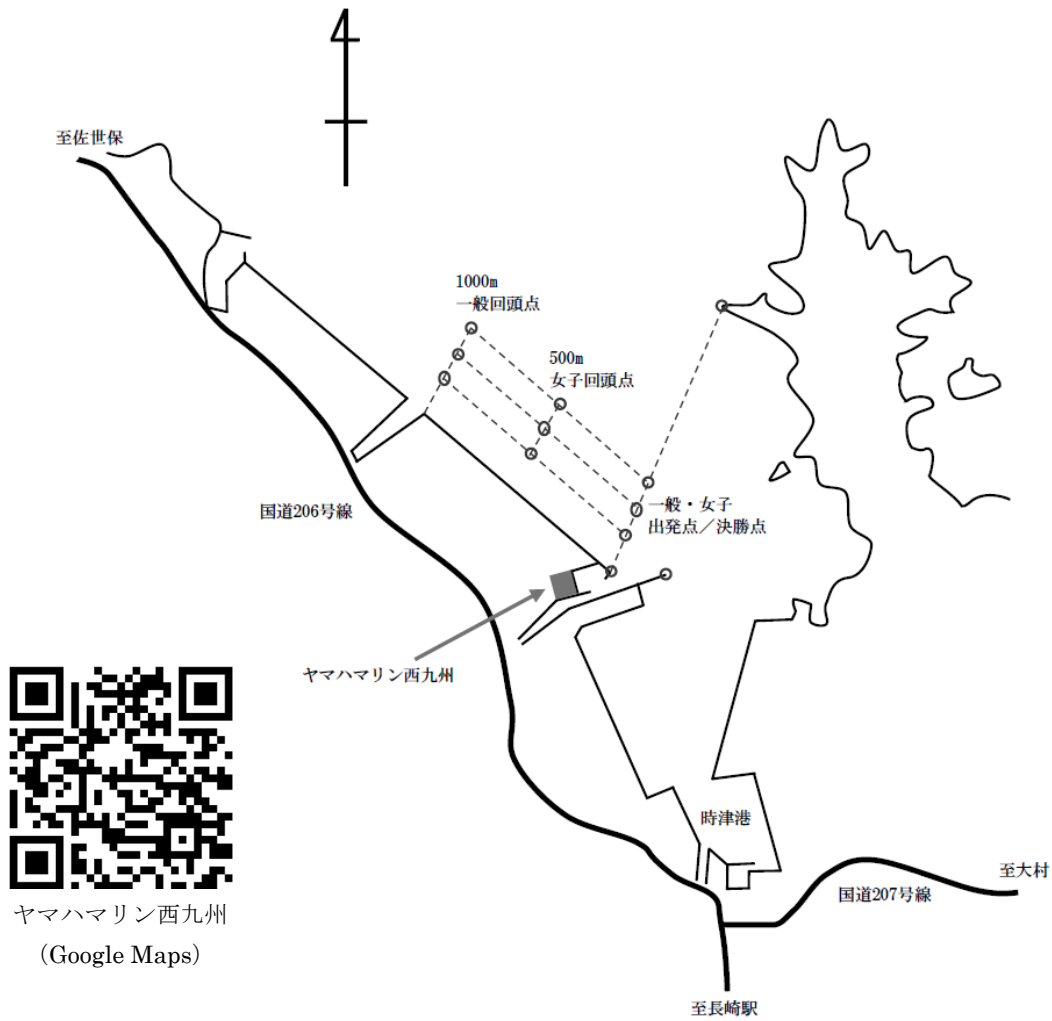
次の各項に該当する行為で、審判長が判定した場合は失格とする。ただし、本審判規定における失格とは当該レースにのみ関するものであり、その成績は当該レースの最下位とみなす。

- (1) 審判長もしくは審判員の指示、または注意に従わなかった場合。
- (2) 「各艇その位置、各艇その位置」の合図より、櫂上げを行ってから発進までにオールを海面につけた場合。
- (3) 他のコースに侵入して他艇と接触し、または他艇の進路を妨害した場合。
- (4) 回頭旗、回頭の方向を間違えた場合。
- (5) 回頭の際、回頭旗または回頭ブイに艇またはオールの一部でも接触した場合。
- (6) 所定の搭載物品を搭載することなく競技に出場した場合。
- (7) 所定の搭載物品を流失し、これを揚収することなく競技を続行した場合。ただし、とう漕中のオールが折損した場合でその一部を有している場合は、流失とみなさない。
- (8) その他、不正行為のあった場合。ただし、失格行為が不可抗力によるものと審判員が認めた場合はこの限りではない。

10. 異議申立

- (1) 各艇の艇指揮は発進までに主催者に起因し、競技に支障のある不備に対し赤旗を揚げた後、審判員に異議申立をすることができる。
- (2) 競技に対する異議申立等は、艇指揮が審判員に対して速やかにこれを行うものとし、審判長がこれを採決する。

〈会場周辺・海上図〉



〈会場図〉



〈本大会にてご支援、ご協力いただいた皆様〉

※順不同、敬称略

【後援】

長崎大学水産学部

長崎大学水産学部同窓会鶴水会

鶴水艇友会(長崎大学水産学部端艇部 OB・OG 会)

株式会社ヤマハマリン西九州

諫早海洋少年団

大村湾漁業協同組合

【協力】

水産大学校

九州看護福祉大学

国立口之津海上技術学校

長崎県立鶴洋高等学校

【協賛】

株式会社テレビ長崎

株式会社西村商会

長崎船用品株式会社

長崎船舶装備株式会社

徳島四季乃菓子あわや

古野電気株式会社

國富株式会社

株式会社谷川建設

山下医科器械株式会社

くじら鍼灸整骨院

あ、そこにも K511

K511 テレビ長崎

毎日元気に生放送!

長崎の夕方

毎週 月～金

夕方 4時10分

MARUTTO

センサーからトータル計測システムまで
ハイテクの成長発展とともに進む

株式会社 西村商会

代表取締役 西村 蔵

本社 〒850-0802
長崎県長崎市伊良林1丁目2番31号
TEL 095-828-2222 FAX 095-824-6144
URL <http://www.n-syokai.co.jp>

香焼営業所 〒851-0310
長崎県長崎市香焼町3021番地22

小長井営業所 〒859-0164
長崎県諫早市小長井町枝256-19

関西出張所 〒674-0058
兵庫県明石市大久保町駅前2丁目2-4 306

舵取機・造水機・製氷機・油洗浄機
膨張式救命いかだ 船用品全般

船 用 品

長崎船用品株式会社

〒850-0078 長崎市神ノ島町1丁目367-27

TEL (095) 833-4500

FAX (095) 833-4455

救命設備長崎SS

〒850-0078 長崎市小瀬戸町1丁目809-22

TEL (095) 865-3364

FAX (095) 865-3365

NSS

長崎船舶装備株式会社

<http://www.nssjpn.co.jp>



徳島・四季乃菓子

あわや

本店/徳島市徳島本町3丁目6 TEL/088(652)6962

佐古店/徳島市佐古3番町3-5 TEL/088(623)7825

小松島店/小松島市日開野町字弥三次14-1 TEL/0885(32)9255

ECモール

楽天市場店 / ヤフーショッピング店 / アマゾン店

LINEギフト / ラシクルモール / 婦人画報 / ふるさと納税



楽天市場店



ラシクルモール

あわや 徳島 検索

総合潜水企業

國富株式会社

< 営業所 >

呉/広島/福岡/北九州/市川
大阪/長崎/神戸/仙台/東京出張所/上五島出張所



潜水士募集中

國富株式会社 長崎営業所

〒852-8003 長崎市旭町2番10号

TEL:095-862-5037 FAX: 095-862-5038

mail: na-jimu@kunitomi-div.com

第70回 西日本新人カッター競技大会を応援します

株式会社 ヤマハマリン西九州

〒851-2107 長崎県西彼杵郡時津町久留里郷1439番地10
TEL:095-882-1829 FAX:095-882-4070
E-mail:info@yamaha-marine.ne.jp



▲ ヤマハマリン西九州



▲ 崎野自然公園



檜の香る家

TANIGAWA

永久に人の仕事。

見えないけれど、たいせつなこと。

医療技術は、日進月歩で進化しています。
それに応えるため、山下医科器械も深化し
企業として、また人として、
ベストを尽くすと同時にベストを更新したい。
いかに器械や薬が発達しても、
医療を支えるのは、人間なのでずから。

山下医科器械株式会社

〔福岡本社〕

〒812-0027

福岡県福岡市博多区下川端町2-1 10F

TEL 092-402-2950 FAX 092-402-2963

〔長崎支社〕

〒852-8107

長崎県長崎市浜口町12-19

TEL095-844-3171 FAX095-844-3174

yamashita
TOTAL MEDICAL SUPPORT

くじら鍼灸整骨院

kujiramedical bonesetting beside acupuncture

〒852-8155 長崎市中園町17-20

TEL&FAX **095-844-7117** (予約優先制)

診療受付	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○		○	○	○
14:30~19:00	○	○		○	○	○

休診日: 水曜日・日曜日・祝祭日

《各種保険・交通事故 取扱可》

★お気軽にご相談ください★



〈過去大会成績〉

〔一般の部〕

	1位	2位	3位
第64回	海上保安大学校	長崎大学	京都府立海洋高校
第65回	海上保安大学校	鹿児島大学	水産大学校
2020年度中止			
第68回	海上保安大学校	神戸大学	鹿児島大学
第69回	長崎大学	神戸大学	海上保安大学校

〔女子の部〕

	1位	2位	3位
第64回	海上保安大学校	京都府立海洋高校	神戸大学
第65回	長崎大学	水産大学校	九州看護福祉大学
2020年度中止			
第68回	長崎大学	海上保安大学校	鹿児島大学
第69回	長崎大学	海上保安大学校	鹿児島大学

優勝回数

〔一般の部〕

海上保安大学校	37回
神戸(神戸商船)大学	11回
水産大学校	9回
長崎大学	7回
三重大学	3回

〔女子の部〕

長崎大学	10回
海上保安大学校	7回
九州看護福祉大学	2回
神戸(神戸商船)大学	2回
東海大学	1回
水産大学校	1回

